

令和元年度第3回藤沢型地域包括ケアシステム推進会議 議事要旨

I. 開催概要

1. 開催日時 2019年(令和元年)12月26日(木)
午後4時30分～6時30分

2. 開催場所 藤沢市本庁舎7階 7-1・7-2会議室

3. 出席者

(1) 委員=22人

小林 邦芳, 関根 顕, 大島 崇弘, 吉田 展章, 齊藤 祐二,
島村 孝子, 児玉 文卿, 栃本 親, 澁谷 晴子, 菅原 健介,
稲生 純也, 伊豆丸弥生, 市川 勤, 田場川善雄, 岩本 将宏,
西山 千秋, 和田真知子, 川村 哲, 秋山 美紀, 竹村 裕幸
伊原 敦, 片山 睦彦

(2) 事務局=21人

地域包括ケアシステム推進室	玉井(室長), 三ツ井(主幹), 高田(主幹), 内田(主幹), 齊藤(室長補佐), 越川(室長補佐), 小鈴(室長補佐), 佐藤 (主査), 石田(主査), 糊澤(主任), 小野(主任)
福祉健康総務課	蓑原(参事), 江添(主幹)
介護保険課	赤尾(参事)
障がい福祉課	池田(参事)
健康増進課	相原(課長), 三澤(課長補佐)
市社会福祉協議会	倉持(参与), 村上(次長), 樋口(主幹), 垣見(生活支援コーディネーター)

(3) 傍聴者= 2人

4. 議題等

1 開 会

2 議 題

(1) 藤沢型地域包括ケアシステムの推進に向けた庁内検討委員会での検討内容について

<資料1>令和元年度第3回藤沢型地域包括ケアシステムの推進に向けた
庁内検討委員会 次第・議事要旨(抜粋)

(2) 藤沢型地域包括ケアシステムにかかる取組状況について

<資料2>短期目標に向けたロードマップの進捗状況及び平成31年度の取組
の方向性

<資料3>藤沢型地域包括ケアシステムにかかる様々な取組について

(3) 意見交換

【テーマ（委員・事務局提案）】

・地域活動の担い手・情報共有について

＜資料4＞地域活動の担い手・情報共有について

＜当日資料＞地域さんかく塾資料

＜当日資料＞藤沢ふれあいフェスタパンフレット

・次回のテーマについて

(4) 藤沢型地域包括ケアシステムの情報発信・リーフレットについて

＜資料5＞藤沢型地域包括ケアシステムの情報発信・リーフレットについて

(案)

＜当日資料＞藤沢型地域包括ケアシステムのリーフレット（基礎編）

(5) その他

＜当日資料＞分庁舎リーフレット

3 閉 会

(1) 藤沢型地域包括ケアシステムの推進に向けた庁内検討委員会での検討内容について

＜資料1にもとづき事務局から説明＞

※質疑なし

(2) 藤沢型地域包括ケアシステムにかかる取組状況について

＜資料2にもとづき事務局から説明＞

委 員

健康カルテについて、民間企業はかかわっているのでしょうか、ヒアリングされているのかなど教えていただければと思います。

事務局

13地区ごとにヒアリングしているということで、地域団体の会議等でご意見をいただいておりますが、企業へのヒアリングは行っておりません。

委 員

企業も巻き込んで、いろいろな資源を巻き込んで、進めることが非常に重要だと考えています。ぜひ、企業との連携を進めていただければと思います。

事務局

市全体の健康づくりは、それぞれの主体、市ができること、地域が、団体が、専門職が、企業が、できることを進めていくことが重要だと考えています。こういった流れの中で、市と事業協定を結んでいる会社が徐々に増えてきており、例えば、健康保険会社では、健診を受けると安くなる商品があるなど、民間独自の健康にかかる取組が進んでいます。また、ふじさわ夢チャレンジについても、企業とwin-winの関係になるようにすすめたいと考えています。

委員

公園は藤沢市内たくさんあると思いますが、どこの場所で、どのような活動がされているのか、もう少し詳しく調べる、啓発することをしていただければと思います。また、公園を掃除するようなグループもありますので、そこを切り口として、地域の縁側に行く、など、進めていくとよいのではないかと思います。

事務局

公園については、藤沢市においては徒歩圏内にあるのが特徴だととらえています。公園課と連携して、健康遊具を徐々に取り入れており、現在30か所程度で講座を開始し、公園の活用のチラシを作成しております。

委員

公園に設置する運動器具は、だれもが色んな人と交流したいわけではないなかで、一人で自由に運動できる仕組みになると思います。これからもっと増えてくるとよいのではないかと思います。また、収集しているデータの中に、要介護・要支援のデータもあるが、認知症の方がどれくらい含まれているか、ということも、ぜひ入れていただきたいです。

事務局

カルテの中に、公園の健康遊具の情報はさむような形で配ることも考えている。また湘南台では、公園体操のマップを作成しておりまして、遠藤地区で、一人でできるラジオ体操、いける場所の情報もいれては、という声もあがっているので検討していけたらと思います。

また認知症のデータはなかなか把握しづらいのが現状で、おれんじプランに記載しているものも認定調査で上がっているもののみですが、データとして認知症に関するものも活用できたらと思います。

委員

健康遊具は使い方がわからない方も多く、地域のPT・OTを活用して、いい使い方が地域でできてくるとよいと思います。高齢者目線で使いにくいものもあるので、使われるような健康遊具を入れることも重要です。また、これからの社会で重要な、子供たちの関係の取り組みはどうか、LGBTの関係、パートナーシップ制度はどうかなど、共生社会に向けたテーマの検討が必要だと考えますが、市としての取組はどのような状況でしょうか。

事務局

LGBTについては、現在庁内で研修等を進めているような段階です。共生社会のいろいろな生活のしづらさを抱えているかたを考える検討を進めているなかで、今後も委員の皆様から様々なアイデアやご意見などいただきながら進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

委員

健康・生きがいつくりのところで、2点あります。健康遊具の部分は、役所に頼るばかりでなく、地域としてやっていくことも重要だと思います。今回PT・OTとの連携などのお話をいただけたのは、ひじょうに心強く感じました。また、公園体操を、地域の大きな資産であり、社会参加の窓口としてとらえ、情報をまとめる取組を進めているところです。

また、全世代型の仕組みを考える上では、全世代型の健康づくりを考えていく必要もあると考えます。子供から大人までが一緒に取り組める仕組みづくりができればいいと思います。地域では、社体協と一緒にできるとよい取組になるのではないかと思います。

事務局

全世代の取組を進めるうえで、地域との連携の視点は非常に参考になりました。また、地域包括ケアシステムというよりは、生涯学習の関係で、ラジオ体操を進めている団体は社体協がかかわっているところですので、いろいろな観点で、協力を進めていきたいと考えています。

(3) 意見交換

【テーマ（委員・事務局提案）】

- ・地域活動の担い手・情報共有について

≪資料3および50代からのシフトチェンジのチラシにもとづき、事務局から説明≫

委員

担い手については、老人クラブでも課題であり、3年前から県老連ではシンポジウムを開催し、長後地区老連は平成29年度にモデル地区として研修を実施、しかし地域での支えあいの必要性は理解しても、担い手として具体的な行動までは進まず、難しい状況です。また、地域における人材の情報は、女性は人のつながりが多いですが、男性は定年後の地域における情報の公開も少なく、人材を探すのに困っています。

委員

郷土づくりの部会において、ボランティアの集い・まつりを実施しました。その結果、そもそもイベントに参加する人が少なく、ターゲットとして、70歳までを外に出すこと自体が難しいと感じました。50代の方はそもそも中々参加できないですし、時間的にも動きやすいのは70代の人だと思います。また、担い手については、我々が行政に頼らずに探すことも重要です。実際に、地域の方のほうが人材の情報を持っているので、例えば、郷土づくりなどはそれなりの人材が集まるが、任期終了後でも地域で活動できるような仕組みが重要だと思います。

委員

そもそも、ここでいう担い手というのが、どういう担い手のことか分かりにくいのが問題だと思います。資料には「福祉分野に限らない」とも書いてありますが、私が思うに、生活支援が重要でその担い手がないことが大きな問題です。町内会をやっていますが、人は多少は来ます。ただ、生活支援の人材となると、足りているとは思えません。地方はコミュニティができているため、互助でできますが、藤沢市では難しい地域もあると思います。そのため、インセンティブ的なことの検討も含め、市としてどういう担い手を求めているのかを明確にして、取組を進めていく必要があると思います。

委員

決してリーダーという観点ではなく、今回のイベントの成果として、ちょっとした困りごとを地域の中で解決できることが重要であると感じました。地域のためにちょっとしたことをやる人が重要であり、地区ボランティアセンターではまかないきれない細かいことまで目を向けて、はざまを考えることができればいいと思います。

委員

善行地区ですが、ボランティアを募るときにやることを絞ってしまうと人は集まりづらいです。どんなことができますかと聞いて人を募り、そしてマッチングする。行きたいときに行くといった形のほうがハードルが低く、まずは始めてもらう。そこから発展して新しいことにもチャレンジしてもらう、というように、些細なことですが、そのような集め方も重要だなと感じています。なにかやってくれる人はいるので、まずは登録させ、そこから必要なところとマッチングさせることで担い手解消につながると思います。もちろん、そこにはコーディネーターの役割も重要となってきます。

委員

若い人にネットワークをつくってもらうことで、気軽に参加してもらえと思っています。我々が声をかけると若い人は構えてしまいます。

委員

最近、子どもは老いや看取りを見たことがなく、そのため担い手や高齢化に興味を持つ人は少なくなっています。長い目で見れば、教育現場において、下地を作っていくことがそもそも重要です。

委員

教育の中で地域の活動を見に行くことも必要だと思います。ただ、どこに行けばいいか教育分野側もわからないので中々進まないのが現実かと思っています。

また、市職員の方にも業務後に地域活動やNPOに参加することも必要ではないかと思っています。

副代表

市の職員は兼業はできませんが、やりはじめている市町村もあり、国でもそのような動きもあります。現状は、許可を得てできることもありますし、ボランティアは問題なくできます。OBになったら地域活動に参加することを推奨することなども考えられるとは思いますが。

委員

そういう仕組みができれば、それだけでも人材は増えてくると思っていますので、ぜひやっていただきたいです。

委員

地域団体に活動していますが、単発なイベントのボランティアは集まっても、地域の福祉をどうしていくか考えて、地域課題を話し合う人材が少ないことを感じています。地域団体に関わっても、面白くないと感じる人もいて、やる気のある人はNPOを作っているなど、いまの人材不足は地域団体の活動に魅力がないからというのも一因だと考えています。地域団体の質も高めないとはいけません。

委員

担い手という点、介護の人材(ヘルパーなど)不足対策と思われることが多い。現在老人クラブ会員の平均年齢は80歳になり、在宅介護の生活支援ボランティアは難しく、訪問先のプライバシーの問題もあります。個人差もあり、できる範囲で無理のない支えあいの多様化など、イメージづくりが必要だと思います。

委員

藤沢市はいろいろな大学があるので、例えば50代でも大学で勉強できる仕組みを作って、学んだうえで地域に参加する仕組みができると面白いと思います。会津若松市など、いろいろな市町村で始めており、藤沢市はできる環境になっていると思いますので、官・民・学が連携できればいいと思います。

委員

大学自体が地域連携を進めており、大学側として、市のニーズに応えることができると考えています。研究室としても地域づくりにかかわっておりまして、自治会に参加することで学生も勉強になります。生涯学習も増えているが、悩みとして、関わっている人に聞いたが、知的好奇心が旺盛だが地域に還元することの視点が少ないことがあるということでした。

委員

即戦力として地区社協で行っていることとして、任期が切れた人を巻き込むことを進めています。また、将来を見据えて、中学校において、地域の特別授業として高齢者のことを考えてもらう授業を6年くらい行っています。今の子どもはおじいちゃんおばあちゃんと一緒に住んでいる人が少ないため、この授業を通して初めて知ったことが多いと聞いています。こういった授業をして驚くのが、挨拶の重要性やスマホで困りごとの解決ができるのではないかなど、子どもたちが非常に真剣に考えてくれます。ぜひ、ほかの地区でもやってもらえるといいと思いますし、子どもたちに知ってもらうことで将来の担い手の育成にも

つながると考えているので、続けていきたいです。今の課題として、やった後の子どもたちへの返しがしきれていない部分があるので、検討したいところです。

<藤沢ふれあいフェスタについて、事務局より説明>

<地域さんかく塾について、事務局より説明>

事務局

事務局としても担い手についての定義も含め、整理しないといけないと感じました。次回の意見交換のテーマのご提案はありますでしょうか。地域活動や子供、障がい分野についての話が多かったかと思いますが、そういった関係を含め、何かありましたらお願いします。

委員

行政と民間企業の連携はテーマになるのではないのでしょうか。グループワークなどもおもしろいかと思います。

副代表

包括的な支援体制のあり方なども重要です。子どもや障がいも含めて地域のニーズにどうやって向き合うか、あるいは子どもや障がいそれぞれについてや、引きこもりについても意見交換できると思います。委員さんからぜひ、ご提案ありましたら伺えればと思います。

事務局

今回の3月まで時間がありますので、ご意見ありましたらご連絡いただければ幸いです。よろしくお願いします。

<<事務局からリーフレットについて説明>>

事務局

リーフレットについては、案を郵送させていただいて、ご意見をいただきたいと考えている。委員の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

<<事務局から分庁舎の地域福祉プラザについて説明>>

以上